

「(仮称)第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」の検討の方向性【概要版】

1 「自転車のまち推進計画」(平成23年度～令和2年度)の評価・課題

I 安全

- ・NCCの形成を目指した自転車ネットワークを更に整備する必要があるため、自転車ネットワーク計画の見直しを行い、安全に走行できる道路環境を計画的に整備延伸していく必要がある。
- ・自転車に関連する交通事故はH30以降、増加傾向にあることから、事故を削減するための事業の検討や、万が一の備えとして自転車保険の加入やヘルメット着用の促進を図る必要がある。

活動指標	前期計画		後期計画	
	目標値	H27	目標値	R元
自転車走行空間の整備延長	9.6km→25.4km	21.7km	21.7km→57.7km	49.9km

II 快適

- ・市営駐輪場の老朽化等に伴う再整備と併せて利便性をさらに向上させるため、ニーズを踏まえ、運営形態などの導入について検討する必要がある。
- ・レンタサイクルは、利用時間の延長や貸出場所の増設などの希望があることから、更なる利便性向上を図るため、既存事業運営の整理と合わせて、ICTを導入したシェアサイクル化の有用性を検討する必要がある。

中心市街地における市営駐輪場の利用者数	—	46,162人	70,000人/年間	124,990人
レンタサイクル拠点・利用者数	4箇所→14箇所 31,000人→41,000人	7箇所 45,582人	—	8箇所 47,590人

III 楽しく

- ・「ジャパンカップ」の魅力をもっと高めるため、走行環境の安全性強化及び観戦環境の充実を図る必要がある。
- ・「宮サイクルステーション」は、利用状況やニーズに応じた機能拡充や施設規模等の検討が必要である。
- ・「自転車のまち宇都宮」の実現に向け、市のSNS等を有効活用しながら、広域的な広報を展開するとともに、民間企業等と連携した事業の検討やPR方法を含めた検討が必要である。

モビリティセンター利用者数(宮サイクルステーション来館者数)	—	5,194人	5,692人/年間 →6,200人/年間	3,969人
自転車マップ配布数	—	40,200部	—	66,300部

IV 健康とエコ

- ・市内の民間企業の自転車通勤に対する関心が低いことから、インセンティブ制度を検討するなど自転車通勤の促進を図る必要がある。

出前講座開催数	—	—	8回(累計)H30設定	6回
---------	---	---	-------------	----

V つながる

- ・新たに整備されるLRT付近への駐輪場整備などを実施することで公共交通と自転車のつながりをさらに強化する必要がある。

バス停付近への駐輪場整備箇所数	—	7箇所	7箇所 →13箇所	12箇所
LRT停留場付近への駐輪場整備箇所数	—	—	停留場付近への駐輪場設置に向けて、民間事業者との連携を図りながら、段階的に整備を進めていく。	

【総括】

成果指標	基準値	目標値	実績	備考
自転車に関連する交通事故件数	H22:629件 H27:429件	320件以下	R1:428件	・H30年以降は増加傾向にある。(特に、自転車の単独事故が増加)
自転車交通分担率*	H22:17%	25%	(参考)R1:13.3%	
市民満足度	H22:29.6% H27:26.7%	50%	R1:27.7%	

※H22結果は国勢調査、R1結果は市民意識調査によるもの

- ・活動指標では、大部分の指標は目標に向けた取り組みが進められているものの、宮サイクルステーションの利用は減少傾向であり、達成度も低い。
- ・成果指標は、いずれも目標の達成度が低いことから、安全性の確保や自転車の利用促進、「自転車のまち」として認識してもらえるための働きかけが引き続き必要である。

2 市民意識調査結果(R1.12実施、回答1,171件)

【「安全」に関連する事項】

- ◆自転車走行空間の更なる整備が必要  
⇒「整備が十分でない」の回答(47.2%)は「十分である」の回答の約2.4倍
- ◆自転車ルールの教育・広報・啓発の充実が必要  
⇒「啓発が十分でない」の回答(46.5%)は「十分である」の回答の約3.1倍
- ◆交通ルールの学習機会の拡充が必要  
⇒これまでに自転車の交通ルールを学ぶ機会があった人は約半数。高・大学生や社会人で学ぶ機会のあった人は1割以下に留まる。高齢者ほど学習機会が少ない。

【「快適」に関連する事項】

- ◆レンタサイクルのサービス拡充や機能更新が必要  
⇒貸出場所の増設や利用時間延長等の要望あり。車両老朽化への対応が必要。
- ◆使い勝手の良い駐輪場の更なる確保が必要  
⇒「整備が十分でない」の回答(33.7%)は「十分である」の回答の約1.4倍

【「楽しく」「つながる」に関連する事項】

- ◆自転車関連の各種取組の認知度向上が必要  
⇒ジャパンカップサイクルロードレースや自転車走行空間、サイクリングロード以外の取り組みは半数以上の人に知られていない。
- 【「健康」に関連する事項】
- ◆健康への意識の高まりを捉えた自転車活用の促進が必要  
⇒年齢層にかかわらず、自転車を利用する理由として「健康」に着目する方が最も多い。

【成果指標に関連する事項】

- ◆実効性ある自転車分担率の向上施策が必要  
⇒自動車の分担率は全体の77%と非常に高い。
- ◆マイ自転車以外も含む利用機会の充実が必要  
⇒19～74歳までは約半数が自転車未保有。
- ◆移動距離に応じて自転車を選択し得る環境構築が必要  
⇒過半数の人が自転車移動を許容できる距離は、3km～5km程度
- ◆自転車を利用するうえでの環境、条件、状況
- ・自転車走行空間が整備されている 67%
- ・駐輪場が整備されている 49%
- ・交通ルールの認知・マナーの向上 43%

3 国・県などの環境変化

- ◇国による「自転車活用推進法」の成立(H29.5)及び「自転車活用推進計画」の策定(H30.6)

「自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成」  
⇒短中距離の自転車への転換、歩行者への事故の対応など  
「サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現」  
⇒自転車による体づくり、健康長寿社会の構築など  
「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」  
⇒サイクリング環境の整備  
「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」  
⇒交通ルールの周知、安全教育の推進など  
【新たな視点】

- ・自転車のIoT化の促進
- ・サイクルツーリズムの推進
- ・自転車の点検整備を促進するための広報啓発等の促進
- ・自転車通勤の促進
- ・災害時における自転車の活用の推進

- ◇安全で快適な自転車利用環境創出がドラインの一部改定(H28.7)及び道路構造令の一部改正(H31.4)  
【新たな視点】・自転車走行空間の整備形態 など
- ◇栃木県による「栃木県自転車活用推進計画」の策定(R2.3)  
【新たな視点】・タンDEM自転車の普及啓発 など
- ◇道路交通法の一部改正(R2.6)  
【新たな視点】・あおり運転の厳罰化
- ◇新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」における自転車通勤・通学の一層の推進(R2.6)

4 上位計画・関連計画からみる目指すべき「自転車のまち宇都宮」の姿

- 目指すべきまちの姿(第6次総合計画/交通戦略)
- 次世代の「人づくり」が充実し、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる【6次総】
- 誰もが健やかで生きがいを持って自立した生活を送ることができる【6次総】
- 日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる【6次総】
- バリアフリー化された安全な歩行空間や自転車走行空間の整備【交通戦略】
- 地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立【6次総】
- 地域資源の魅力を創造・発信し、人や情報が行き交い活力が生まれる【6次総】
- 公共交通と自転車等の乗換環境確保【6次総】
- 多様なライフスタイルに対応した低コストで効率的な移動手段の確保【交通戦略】
- 魅力ある都市空間の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築【6次総】
- 階層性のある公共交通ネットワークの構築【交通戦略】

- 目指すべき「自転車のまち宇都宮」の姿
- 通勤・通学・買い物やサイクリングに利用できる安全・安心・快適な自転車ネットワークが構築されている。
- 自転車利用者だけでなく、普段自転車を利用しない人にも自転車通行ルールが認知されている。
- プロスポーツ競技者など多様な担い手の参加により、幅広い世代が自転車の楽しさや交通ルールなどを学ぶ機会が充実している。
- 市民一人ひとりとはもとより、地域や事業者などにおいても健康への意識が高まり、自転車はそのツールとして定着している。
- 利便性の高いシェアサイクルが普及し、中心市街地や観光地の回遊、仕事での移動に利用されている。
- 多くの市民や来街者がサイクルスポーツを楽しんでおり、ジャパンカップコースやサイクリングロードを使った周遊観光が人気のコースとなっている。
- 短い距離はもちろんのこと距離のある場合でもLRTや路線バスなどの公共交通と組み合わせで通勤・通学や買い物に自転車が利用されている。
- 多くの市民や企業が自転車のまちの推進に参加している。
- 「自転車のまち宇都宮」が国内・国外に情報発信されている。

5 「自転車のまち宇都宮」の推進にあたっての取り組みの方向性及び検討の視点

現計画の柱	取り組みの方向性	検討の視点
I 安全	・自転車走行空間の整備推進と利便性の高い自転車ネットワークの構築 ・交通安全教室の充実及び自転車保険加入促進、ヘルメット着用促進	(1) 誰もが安全・安心・快適に自転車を利用できる環境づくり
II 快適	・レンタサイクルの事業運営の見直しと利便性向上 ・駐輪場の再整備・管理運営・利便性向上の検討 ・駐輪スポットの設置・自転車の駅の増設 ・自転車のIoT化の促進	(2) 自転車を活用した持続可能で魅力あるまちづくり
III 楽しく	・ジャパンカップコースの活用及びジャパンカップを活かしたPR ・宇都宮ブリッツェンと連携した自転車教室等の開催 ・宮サイクルステーションの機能拡充の検討	(3) 一人ひとりが健康で楽しく暮らせる自転車のまちづくり
IV 健康とエコ	・自転車通勤・通学の促進 ・自転車を活用した健康増進	(4) 自転車を活用した過度にクルマに依存しないライフスタイルの推進
V つながる	・自転車と公共交通との連携強化 ・サイクルツーリズムの推進(モデルルート設定、走行環境整備、受入環境整備等)	(5) 「自転車のまち宇都宮」の市内外への積極的な情報発信
		(6) 官民の連携・協力による「自転車のまち宇都宮」の推進

- 〔(仮称)第2次宇都宮市自転車のまち推進計画(素案)の検討〕(第2回宇都宮市自転車のまち推進協議会で検討)
- ・計画の基本理念・目標
  - ・実施すべき施策(施策体系・施策事業、重点事業等)
  - ・成果指標・活動指標
  - ・推進体制、実施スケジュール など